

巡拝感想

令和3年11月1日発行

生きがい遍路 奥平光明（光代）

はなく、ご神仏、ご先祖様、両親の尊いお導きと 思います。六波羅蜜を精進し、森羅万象に感謝し、今、生かさせて頂いていることに手を合わせ、「生きがい遍路」を人生の糧、道標として生涯続けさせて頂きたいと願うばかりです。

“楽しく、安らかに”も忘れずに、皆様との素敵な出逢いを心待ちに・・・ありがとうございます。

合掌

私は平成十九年四月一日からお遍路を始めました。某バス会社の四国八十八ヶ所遍路ツアーガが目に入ったのがきっかけでした。その後西国三十三観音霊場、四国別格二十霊場、四国三十六不動霊場へと何かに導かれるようにお参りをさせて頂くようになりました。

父のように慕う師匠にめぐり逢い、師匠は、お参りの作法、心構え、そして得度を受ける意味、有り難さをお教え下さいました。多くの先達先生のお教え、寺院様からの厚きご配慮、ご指導を頂きました。大事故からの奇跡、病魔を消滅して頂きました。素晴らしい出会いは偶然で



新しく先達になられた方のお名前を記載させていただきます。これからもよろしくお願いします。

sikoku36fudo@gmail.com

「かんまん編集委員会」

三番最明寺・七番福性寺・十三番密嚴寺

巡拝感想並びに功德体験を募集しております。是非貴重な体験をメールでお聞かせください。募集させて頂いた内容はこのページに掲載させて頂きます。

編集後記

新任先達紹介

胸飾玉・念珠玉の親玉（不動玉）授与所は、令和2年10月より下記札所に変更となっておりますのでご注意ください。

第23番 極楽寺（靈場会事務局）
TEL 0897-59-0011
先達関係のお問い合わせ（補任・住所変更など）は下記までお願いします。

第2番 明王院（靈場会先達事務）
TEL 088-35-3010

事務局

行事案内

不動霊場先達また ご参拝の皆様へ

靈場会長 荒井 浩忍
(第二十二番 興隆寺院家)

かんまん

題字：三宅 佳林

四国三十六不動霊場広報誌

第07号

目次
1P 行事案内・会長挨拶
2P 火祭り報告
3P・4P 寺院紹介・巡拝感想 新任先達紹介・編集 後記

六波羅蜜修行推進先達講習会

日時 令和四年五月予定

場所 未定

令和四年不動の火祭り

日時 令和四年三月三日（木）

場所 第二十九番 本山寺

担当 第二十九番 本山寺

※参拝形式については追ってホームページで公開します。無参拝でも開催する予定です。

※各行事につきましては、新型コロナウィルスの感染状況によつては直前の変更もござります。ご迷惑・ご不便をおかけ致しまず、ホームページやFacebookでのお知らせをしておりますのでそちらのページの随時確認をお願い致します。

※各行事につきましては詳細が決まり次第ホームページに詳細を掲載しております。時間等はそちらをご参照ください。

季節の変化は速いもので、気づけば夏へと移り変わらうとしております。

一 四国三十六不動霊場では、三月三日に十一番童学寺にて無参拝の「不動の火祭り」を厳修いたしました。

本来ならばたくさんの参拝の方にお越しいただいて、様々な思い、願い事を一緒に祈願できれば幸いのですが、新型コロナウィルス感染症の蔓延防止を考え、やむなく無参拝での火祭りとさせていただきました。

それでも靈場会としては大勢の

方に一緒に願いを捧げてほしいという思いから、靈場寺院の協力のもと、当靈場初のライブ配信を行いました。先達の皆様方のご協力もあり、無事に「不動の火祭り」での祈願を終えることができましたことを大変喜ばしく思っております。

まだまだウイルスは勢いを弱めることなく私達の生活に影響を与え続けておりますが、また以前のように皆様がお元気なお姿で火祭り参拝や巡拝が出来る日が来ることを願い、当山二十二番西山興隆寺でも、千手觀音さまのご利益をより多く大勢の方に届けるため、千手觀音さまのお付きの仏さままであります二十八部衆さまの修繕に取り掛かりました。

大変な時期で心の余裕がなくなることもありますが、思いやりの心を忘れず、一人一人仏さまに恥じることのないお気持ちでお過ごしくださいませ。

今後も皆様に良い発展がありますよう、靈場寺院一同、心より願つております。

合掌

令和3年11月1日発行

発行
四国三十六不動霊場会
「かんまん」編集委員会

メール
sikoku36fudo@gmail.com

ホームページ
<http://sikoku36fudo.org/>

不動の火祭り

令和三年三月三日（水）に会場

第十一番札所 童学寺（徳島県名西郡石井町石井字城ノ内六〇五）

にて行いました。

この度は、新型コロナウイルスの影響により去年に引き続き無観客での実施となりましたが、靈場会では初めてとなるYOUTUBEにてライブ配信をさせて戴きました。本来はたくさんの方々に参拝していただき予定でございましたが、画面を通じて多くの方に不動の火祭りをご覧頂く事が出来たかと思います。新型コロナウイルスの収束を心からお祈り申し上げ、さらに皆様の健康を祈念しての法要を寺院・行者・実行委員会所属の先達のみで行わさせていただきました。

ご協力いただきました皆様、有り難うございました。



https://youtu.be/qCkQD2F_WCo



<https://youtu.be/5Rvk1gyhgko>

放送されたライブにつきましては、左のQRコードもしくは、URLにてご覧頂けます。YOUTUBEのチャンネルの登録もよろしくお願ひいたします。



柴燈護摩の様子



集合写真



式衆の様子



会長挨拶

寺院紹介

第二十三番 石鎚山真言宗 総本山 極楽寺

本尊は阿弥陀如来、觀音、勢至の三尊である。藏王殿には当寺前身である天河寺の焼け跡より修繕した石鎚金剛藏王大権現と、近年改められた龍王吼藏王大権現、無畏宝吼藏王大権現を奉祀する。

現在は真言密教の法灯を軸としながら、石鎚山修験道の精神を継承護持して修験行者の育成に力を入れている。

開山の縁起伝承。役行者は白鳳八年（六六八年頃）、石鎚山に御入山。龍王山、瓶ヶ森に籠りて修行。衆生済度、密厳淨土の実現を祈られて石鎚を拝せり。時に楠花咲きし満願日、西方極楽淨土より弥陀三尊が御来迎。数日に亘り拝するも役行者は更に末世を慮りて誓約となつて示現。龍王山中に堂一宇を建立し、天河寺と号

して弥陀三尊と三体の権現を奉祀する。一刀三札に彫まれし権現の相形は後世衆生に永く示して済度せんが為なりと。後に寂仙、上仙、弘法大師、光定大師等の高僧修行されると。

平安初期頃には、天河寺が石鎚山修験道の中心として山中修行の僧を擁していた。石鎚権現は天河寺に当初祀られ、次いで古権現の森とも呼ばれる瓶ヶ森の山に奉祀。天河寺は瓶ヶ森石鎚権現の別當寺院として機能した。

極楽寺は、南北朝の争乱の中に天河寺が炎上（細川頼春が寺に陣を敷いた関係より）、時の住職行善は弟子宥法に対し、「弥陀三尊を奉持して直ちに下山し、天河寺山麓において法灯を継承せよ。役行者の御心を体して權力と結ばず、庶民救済、信仰の道場とせよ」との命より開基される。この時、師の行善は藏王権現をしつつ炎の中に遷化された。

現住職は宥法より数えて第三十一世となる。

通常勤行次第には千度祓、礼文、天狗経、石鎚和讚を上げる。



龍王山 不動ヶ滝



龍王山での護摩祈祷

年間行事	
正月元旦（三日）	石鎚大権現新年初祈祷
二月	節分
三月	春の十三仏供養会（お彼岸供養）
五月三日	石鎚山春山大祭・柴燈大護摩供
六月	石鎚山春山入峰行
七月一日～十日	石鎚山お山開き大祭
八月十二日	お盆万灯会供養会
八月	石鎚山入峰行
九月	水子供養会
十月	秋の十三仏供養会（お彼岸供養）
十一月	石鎚山秋山入峰行
十二月冬至	石鎚聖天祭
冬至水行	



式衆の様子